

策定年月	令和5年6月
見直し年月	令和〇年〇月

# 麦・大豆国産化プラン

産地名：大田原市

（作成主体：Beans）

# 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

## 【事業対象作物】大豆

### 【現状】

- ・Beansにおいては、令和4年から令和5年で、作付面積は4.66ha増加予定。
- ・JAなすの管内の作付面積については、令和元年産から令和4年産で、ほぼ横ばいで推移。
- ・JAなすの管内の単収は年によってばらつきはあるが、令和3年産で160kg/10aと県平均180kg/10aより低い。
- ・単収が低い主な要因は、湿害である。
- ・本地域における大豆の播種時期は6月中旬と梅雨時期にあたるため、梅雨の限られた日に作業を実施する必要があるものの、適期播種が実施できていない年がある。

### 【課題】

- ・天候不順等の影響で適期播種が実施できないことから、湿害ならびに播き遅れにより収量が低下している。
- ・収穫時期の遅れにより品質が低下している。
- ・連作により収量が低下している。

### 【課題解決に向けた取組方針】

☆適期作業や排水対策による収量・品質の確保

#### ①生産性を高めるための団地化

- ・団地化により生産性を高めるため、現在散在しているほ場について、団地化に向けて地域の農業者と話し合いを実施

#### ②排水対策技術の導入

- ・溝堀り機を用いた明渠の施工

#### ③ブロックローテーション

- ・連作障害の回避

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

## 2. 産地と実需者との連携方針

### 1. 連携方針

・大豆の集荷事業者である全農とちぎと連携し、実需者の需要を的確に把握し、需要に応じた生産を実施する。

### 2. 大豆の現状の取扱量と対応策

品種名	現状	目標	現状の供給先
里のほほえみ	50.9t (R4生産量)	56.1t	

・R5年産の県産大豆の需要見込みは ■■■ t、これに対しR4年産契約数量は ■■■ tとなっており、供給不足が見込まれる。

→Beansにおいては、2.6haの作付面積拡大(令和7年産)による生産量の増加により対応する。

### 3. 目標達成に向けた具体的な方策

- ・団地化に向けた話し合い。
- ・機械(コンバイン、トラクター、中耕カルチ、ロータリー)の導入による生産性向上。
- ・栽培講習会等への積極的な参加による栽培技術の向上。

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

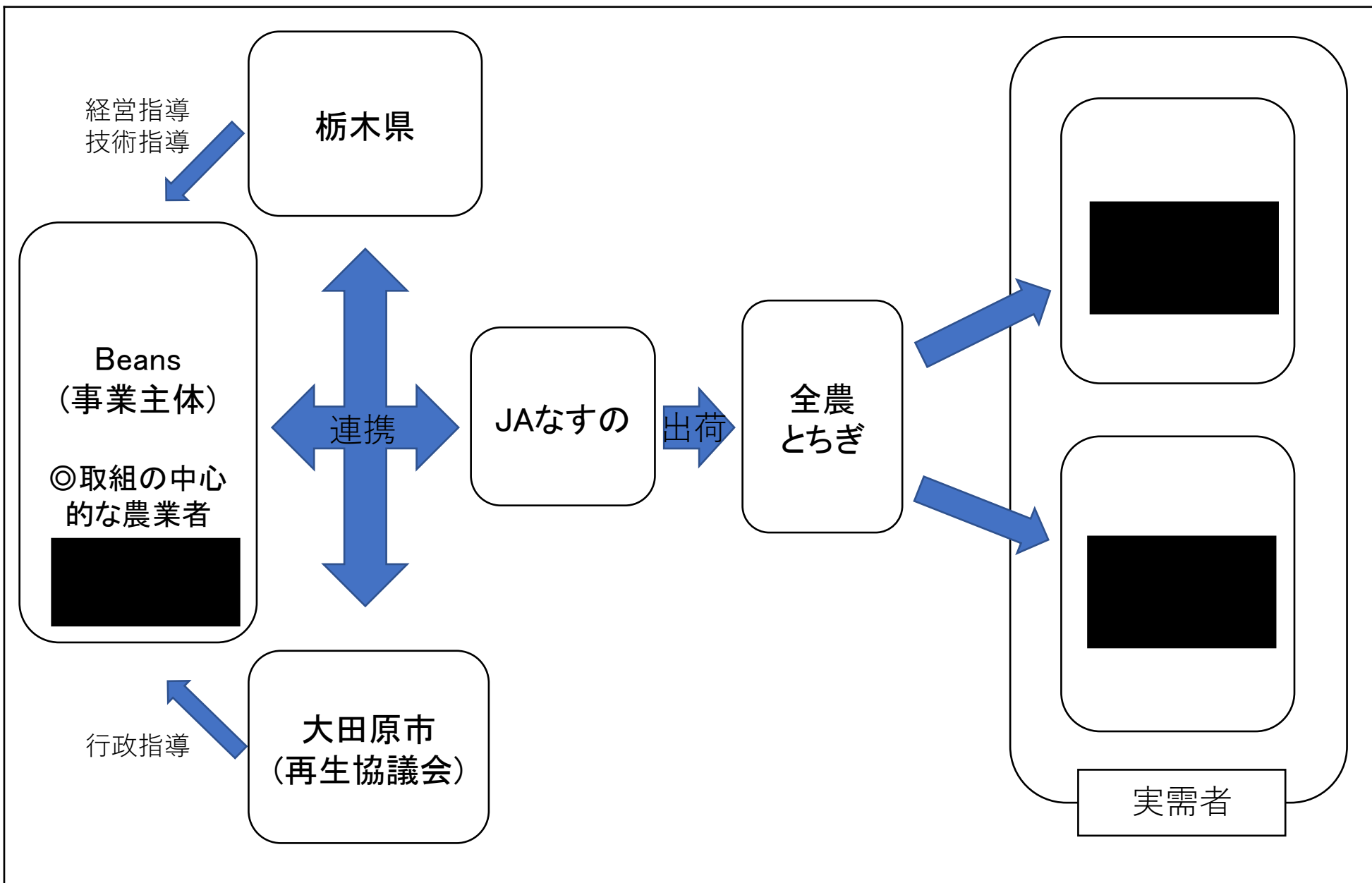
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

### 3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。